岩手県立大学広報誌

県立大Arch

2018 20th Iwate Prefectural University

Vol.75 Autumn

開学20年の誕生日は、新たなスタート！

～地域に根ざした大学として20年の実績を未来に！～

その先をつくる大学。
岩手県立大学
Iwate Prefectural University

岩手県立大学の魅力を発信すべく日々活動する学生団体、キャンパスアテンダント(CA)。
そんなCAたちが、県大生の県大生による県大生の今を伝えますっ ヾ(*´∀｀*)ノシ

ケンダイ広報局 学生★企画

今回のテーマ「おすすめ講義ちゃんねる」

岩手県立大学ならではの講義をクローズアップしたおすすめ講義ちゃんねる!今回は2つの学部のおすすめ講義を紹介しちゃいます♪

File 01 Faculty of Nursing

地域の方々と共に!

基礎看護学実習II 模擬患者演習

わらー
看護学部2年
Report is WARAH

講義の内容

看護学部では実践力を磨くため、高機能患者シミュレータ(モデル人形)や模擬患者を活用したシミュレーション教育が行われています!特に、模擬患者演習では、地域住民の方々のご協力を得た演習により、実践的なコミュニケーション能力・看護技術を身につけていきます。

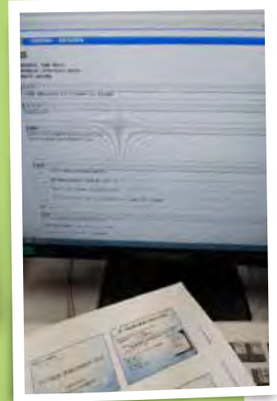
オススメポイント

地域住民の方にご協力いただき、今まで学んできた看護の技術を実践する貴重な機会です。私は、1年生の時にお世話になった模擬患者さんを今年も担当させていただき、模擬患者さんに1年間の成長を見てもらうことができました。実践形式の演習はとても楽しく、演習での出会いも自分を成長させてくれます。模擬患者演習の学びを活かして、これからの実習を頑張ります!

File 02 Faculty of Software and Information Science

自分の未来を想像!

情報システム構築学



やしき
ソフトウェア情報学部3年
Report is YASHIKI

オススメポイント

情報システムを開発していく上でどのような手順で開発・運用・保守していくのかを、実際に問題をつくりながら学ぶことができます!また、実際に企業の方をお招きした講演もあるので自分の将来の姿を想像しながら講演を聞くこともできます。

講義の内容

情報システム構築の基礎知識について習得するための講義です。中でも情報システムの大規模化、複雑化に対処するためにシステム運用保守の重要性と適用について理解することが目標です!

[Twitterアカウント]@iwate_pu_CA　岩手県立大学キャンパスアテンダント公式アカウント!!
※ツイート内容は大学の公式見解ではありません。大学生目線でCAメンバーがつぶやきます!!ハッシュタグは#岩手県立大学CA

Blogはこちら→

岩手県立大学 企画室
Iwate Prefectural University
〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52　TEL.019-694-2005　FAX.019-694-2001
[URL]http://www.iwate-pu.ac.jp/　[e-mail]management@ml.iwate-pu.ac.jp

[看護学部] [社会福祉学部] [ソフトウェア情報学部] [総合政策学部] [盛岡短期大学部] [宮古短期大学部]
[看護学研究科] [社会福祉学研究科] [ソフトウェア情報学研究科] [総合政策研究科]

発行:2018年9月30日

Copyright © 2018 Iwate Prefectural University All Right Reserved.

地域に根ざした大学として20年の実績を未来に！

次代を切り拓く人材育成を担う大学として平成10年に開学した岩手県立大学は、平成30年４月、開学20周年を迎えた。地域に根ざし、地域と共に歩んできた歴史を振り返りながら、未来に向けた新たな大学づくりのシーズを探ってみたい。

20年の歩み

平成10年4月 岩手県立大学開学／西澤潤一学長就任
盛岡短期大学を岩手県立大学盛岡短期大学部に改称
宮古短期大学を岩手県立大学宮古短期大学部に改称
平成12年4月 岩手県立大学大学院開設（ソフトウェア情報学研究科博士前期（後期課程、総合政策研究科博士前期課程）
平成13年5月 中国・河北省社会科学院との国際交流協定を締結
12月 韓国・慶尚大学校との国際交流協定を締結
平成14年4月 岩手県立大学大学院開設（看護学研究科博士前期課程、社会福祉学研究科博士前期課程、総合政策研究科博士前期課程）
平成15年12月 中国・大連鉄道学院（現・大連交通大学）と国際交流協定を締結
平成16年4月 岩手県立大学大学院開設（看護学研究科博士後期課程、社会福祉学研究科博士後期課程）
5月 ソフトウェア情報学部教育プログラムをJABEEが認定
7月 文部科学省特色GPにソフトウェア情報学部が採択
平成17年4月 公立大学法人岩手県立大学設立／谷口誠学長就任
岩手県立大学地域連携研究センター設置
平成18年4月 アイーナキャンパスがオープン
共通教育センター設置
8月 盛岡短期大学部の国際文化教育が特色GPに採択
9月 韓国・又松大学と国際交流協定を締結
平成19年8月 文部科学省の「社会人学び直し」に社会福祉学部の「コミュニティカウンセラー」が採択
看護学研究科・文部科学省「平成19年度がんプロフェッショナル養成プラン」に採択
平成20年4月 公共政策研究所設置
学生ボランティアセンター設置
9月 文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連推進プログラム」に「いわて高等教育コンソーシアムにおける地域の中核を担う人材育成と知の拠点形成の推進」採択、岩手高等教育コンソーシアム設立
平成21年4月 中村慶久学長就任
5月 滝沢村（現滝沢市）と地域経済分野に関する協定締結
滝沢村（現滝沢市）IPUイノベーションセンター開所
平成22年9月 文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に「岩手の地で鍛える学生主体の確かな就業力」採択

教育活動

地域を学び、課題を解決する力を育む。

地域と連携した教育・研究活動に取り組み、「地域の大学」をモットーに掲げる県立大学。さらに地域志向を高め、地域の将来を担う人材を育成するために、平成28年度に開設したのが「いわて創造教育プログラム」だ。

これは、1年次全員が必修として受講する、地域や大学の特色を知り自身と岩手との関わりを考える科目「いわて創造入門」をスタートに、県内各地に学生が赴き、一泊二日のフィールドワークを通して地域について学ぶ「いわて創造学習」、最終的にこれまでの学修成果を「いわて」の視点でまとめる「いわて創造実践演習」などの授業を通して、段階的に地域課題を解決できる力を身につけるプログラムだ。岩手を深く学ぶことによって未来を創造する人材を育成する、新たな教育の柱となっている。

研究活動

大学の研究力を、地域の復興を支える力に。

開学以来、様々な研究活動に取り組んできた県立大学では、平成23年3月の震災をきっかけに、県民のシンクタンクとしての役割を果たす「地域政策研究センター」に、被災地や被災者のニーズに対応する『震災復興研究部門』を設置。さらに平成26年度からは、「東日本大震災津波からの復興加速化プロジェクト研究」に取り組んでいる。

具体的には、被災地の復興計画を3D地形モデルに落とし込み役立ててもらうプロジェクトや、ICTを活用した見守りによる孤立防止とコミュニティづくりの支援、水産加工品の競争力を強化していくための研究プロジェクトなどを展開。暮らし、産業・経済、社会・生活基盤の多分野に渡り、研究成果を地域に還元しながら沿岸地域の復興を支えている。

平成23年4月 災害復興支援センター設置
地域連携棟内に「地域政策研究センター」設置
8月 学生災害ボランティアセンター、いわてGINGA-NETプロジェクト発足
9月 いわものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター（iMOS）設置
11月 文部科学省「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」に「いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業」採択
平成24年2月 「復興ぎんが・ぎんが」が社会人基礎力グランプリ2012決勝大会で準大賞を受賞
6月 文部科学省「地域イノベーション戦略支援プログラム」に「いわて研究と人にやさしい次世代モビリティ開発拠点」採択
9月 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に「産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成」採択
10月 ラーニング・コモンズ開設
12月 宮古市田老総合事務所に「岩手県立大学復興サポートオフィス田老」開所
平成25年4月 高等教育推進センター設置
5月 釜石・大槌地域産業育成センターに「岩手県立大学復興サポートオフィス釜石」開所
平成26年3月 ソフトウェア情報学部の「プロジェクト・演習」が経済産業省の「社会人基礎力を育成する授業30選」を受賞
5月 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（ナーマB）」インターンシップ等の取組拡大」に東北の「結い」で繋ぐふるさとインターシップの拡充採択
7月 ラーニング・コモンズ「多目的スペース風のモント」開設
平成27年4月 鈴木厚人学長就任
9月 文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋事業）」に「ふるさといわて創造プロジェクト」（幹事校：岩手大学）採択
11月 ゲストハウス開設
12月 総合政策学部の学生チームが「社会人基礎力育成グランプリ2016」地区大会にて準優秀賞を受賞
平成28年4月 学生サポートサロン（アイプラス）設置
7月 男女共同参画推進センター設置
10月 文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成（enPiT）」事業・連営拠点大阪大学）において、ソフトウェア情報学部がビジネスシステムデザイン分野の連携校として採択
11月 外務省対日理解促進交流プログラム（KAKEHASHI Project）によるアメリカ派遣事業に採択

地域貢献

ボランティアを通して、地域の人々をサポート。

県立大学が掲げる「地域社会への貢献」を実現する取組の一つであり、大きな特徴でもあるのが、学生によるボランティア活動だ。県内で唯一の「学生ボランティアセンター」は、地域のボランティアニーズを学生活動につなげるコーディネートを行っており、学生自らが運営を担っている。

これまでの活動では、大学周辺地域の滝沢市川前地区でのパトロールや防犯拠点づくりを行う「川前パトロール隊」、住民と学生が交流し、地域とのネットワークを広げる「Donabe-Net」、全国の学生と被災地をつないで災害復興支援を行う「いわてGINGA-NETプロジェクト」、西和賀町で高齢者のための雪かきボランティアをする「西和賀プロジェクト」などを行ってきた。

県立大学では、これからも地域に根ざした学生によるボランティア活動を展開していく。

次の未来に向けて

次代を切り拓く人材育成が、大学の使命。

開学から20年が経ち、人口減少や地域経済のグローバル化の進展、東日本大震災津波など、大学を取り巻く環境も大きく変わった。その中で求められるのは、次代を切り拓く人材育成であり、さらなる学術研究の充実である。

県立大学では平成29年度から6年間の新たな方向性を指し示す「第三期中期計画」を作り、「いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学」を目標に掲げた。これを実現するため、開学以来取り組んできた「実学実践による教育・研究活動」に加え、これまで以上に地域志向教育を充実させ、岩手に新たな価値を生み出す研究や地域貢献活動に力を入れていく。そして、何より学生の主体性を大切にし、次代を切り拓く人材を育てていくことが、岩手の可能性を拓くことにつながっていくはずだ。

[卒業生からのメッセージ]

開学20周年、おめでとうございます。4年間の学生生活で、地域社会に貢献することの素晴らしさを実感し、常に新しい発想を大事にするチャレンジ精神を培えたことが、今に繋がっています。私は現在、岩手県の魅力を海外へ発信し、外国人観光客の誘客拡大を図る仕事をしていますが、仕事上でも後輩に会う機会が増えており、嬉しい限りです。在学生の皆さんには、大学の恵まれた環境の中で自分を磨き、岩手そして世界で活躍されることを期待しています。

松田 耕一さん
岩手県商工労働観光部観光課 国際観光担当
ソフトウェア情報学部 卒

開学20周年、おめでとうございます。在学中は、2年間という短い学生生活でありながら、密度の濃い貴重なキャンパスライフを楽しむことができました。中でも「さんさ踊り」に参加したことが印象深く、みんなで協力し、一つになれたことはかけがえのない思い出であり、様々な経験が今の私につながっています。現在は、大好きな岩手に就職し、子育てをしながら仕事を続けています。母校の益々の発展をお祈りしております。

松本 梨奈さん
岩手銀行伊保内支店
盛岡短期大学部生活科学科 卒

開学20周年おめでとうございます。宮古短期大学部は、学生が主体性を持って学ぶことができる大学です。私は学生時代、地域創造プログラム（現：いわて創造学習）で陸前高田・大船渡コースの企画を担当。苦労することもありましたが、仲間の協力や支えのおかげでプログラムをやり遂げることができました。その時の経験やチャレンジする姿勢は、社会人となった今も活かされています。母校の今後のさらなる飛躍を期待しております。

中口 翔博さん
TIS株式会社
宮古短期大学部 卒

創立20周年に寄せるメッセージ

2018 20th Iwate Prefectural University

平成30年4月、岩手県立大学は開学20周年を迎えた。「地域の大学」として地域に根ざした教育・研究活動を実践し、これまで輩出した卒業生は約1万2000人（平成29年4月現在）。記念すべき年を迎え、大学へ寄せる想い、これから期待することなどを教員たちに聞いた。

岩手県立大学看護学部 金谷 掌子 講師

私自身も岩手県立大学の卒業生で、3期生です。振り返れば大学時代は、人生で一番勉強に没頭した時期。周りもみな貪欲に学んでいましたし、先生方には看護学だけでなく、多くの経験を積んで豊かに生きること、自分の意見を持つことの大切さを教わりました。

県外の病院で助産師として働いた後、看護学部の教員になったのですが、大学院は社会福祉学研究科へ。うちの大学は4学部ありますから、看護学部に所属しながら他学部の研究科で学ぶことができるのも魅力の一つ。自分のテーマの一つである「就労妊婦への支援」を追究するために、臨床心理学の観点から人間を理解し、研究に向き合えたことは大きな収穫でした。

開学以来、ずっと地域に根ざしてきた教育の歴史は、他の大学にはないものです。これを基盤に、指導環境をより充実させることで、優れた人材育成ができ、看護学部の発展にもつながっていくと思います。

岩手県立大学総合政策学部 佐野 嘉彦 教授

無限の可能性がある。カラマツ林に囲まれた、新しい、大学の敷地やガラス張りの建物をみて感じたことです。何十年も経てば、緑に調和する伝統的なヨーロッパの大学のようになっていくのだろうか、とも期待しました。開学当時は、すべてがほぼゼロからのスタートであり、教職員、学生が議論を重ね、いい大学をつくろうという気概に満ちていたように思います。

私が所属する総合政策学部は、行政・経営、環境・地域など広い視野と多様性という特色があり、地域課題に直結した領域を学び、実践できるのも大きな特徴です。

この20周年という節目に思うのは、目先のことばかりに囚われると可能性が狭まってしまうこと。もっと自由に、さらに20年、いや100年先をも見据えて、道を選んでいくことが、可能性を広げていくことになるはずです。その為にも、あえて一度立ち止まり、しっかりと未来の方向性を考え、議論することが、必要ではないでしょうか。

20th anniversary messages

未来に向かって、新たなアクションを起こす学生がいます。地域の先を見据え、活躍している卒業生がいます。彼らが何を思い、どんな活動をしているのか。それぞれの扉を開けてみましょう。

在学生

社会福祉学部4年

箭内 杏香

1996年生まれ、宮城県仙台市出身。仙台市立仙台青陵中等教育学校卒業。居酒屋とテレビ局のアルバイトを掛け持ちする多忙な日々だが、「休日も出かけることが多い」アクティブ派。岩手のお気に入りスポットは、宮古市の浄土ヶ浜。

キャンパスの内と外で学んだ福祉。広い視野で、地域を支える力になりたい。

難病を持つ友達と小学校時代を過ごしたり、盲導犬の訓練施設でボランティアをした経験から、福祉分野に興味を持ちました。地元の仙台を含めた進路の選択肢の中で、選んだのは岩手県立大学。オープンキャンパスで体験した模擬講義で「バリアフリーにすることが正解とは限らない」という先生の言葉にハッとし「もっと深く学びたい」と思ったことがきっかけでした。

県立大学は、先生との距離が近いのが魅力。また、大学の外で学ぶ機会に恵まれているところもいいなと思います。3年の時、先生の勧めで「岩手県障害者施策推進協議会」の公募委員になりました。会議では大人の方々に囲まれ緊張しましたが、それぞれの視点や「現場の声」に気づかされることが多く、私自身の視野が広がりました。

卒業後は県内の金融機関に就職予定。福祉からは離れますが、相手に寄り添う福祉のあり方は、人との関わりすべてに通じるもの。4年間で学んだ「福祉の心」を力に、地域に貢献する社会人になりたいです。

福祉の道 まっすぐに

難病や障害の人助けたい

県立大3年の箭内さん

県公募委員務める

「行政学び視野を広く」

岩手日報2018年3月28日付　28面

卒業生

IBCラジオ684リポーター
(株)総合企画 新和

赤坂 菜生

1994年生まれ、岩手県盛岡市出身。盛岡第二高等学校、岩手県立大学盛岡短期大学部卒業。大学時代は勉強とアルバイトにいそしんだが、学生のやりたいことを尊重してくれる雰囲気が好きだったという。趣味は刺繍とひとり旅。

興味を抱いたら、自分から会いに行く。人との出会いが、新しい扉を開いてくれます。

知らない世界や人に出会えるのって、すごく素敵なことだ！大学1年のアメリカ研修で、未知の世界を知る楽しさに目覚めた私は、多くの人に会い、その思いを伝える仕事に就きたいと考えるようになりました。

盛岡短期大学部ではスペイン語に夢中になり、本格的に学ぶため編入学を志望したのですが、断念。卒業後の2年間はアルバイトをしながら、新聞記者やアナウンサーの採用試験に挑戦し続けていました。転機が訪れたのは、1年半前。友人に薦められて、IBCラジオのリポーターに応募。念願だった仕事に就くことができたんです。

私が担当するのは、県内各地に出向き、様々な人やお店のお話を紹介すること。ラジオに「また出たい」「また聴きたい」と思っていただけたら嬉しいなと考えながら、皆さんとお話できる幸せを噛み締めています。

まだまだ駆け出しですが、たくさんの人に出会えることが嬉しくて、楽しくて。これからも684として、大好きな岩手の素晴らしさをラジオを通して伝え続けたいです。

母校の盛岡短期大学部を訪れて、
ラジオ生中継。学生にインタビューをする赤坂さん。

地元企業と連携して、課題解決力を育てる

例えば、馬っこパークに集客できるアイデアはないか？園内をもっと楽しく廻れる仕掛けはできないか？ソフトウェア情報学部では、地域の課題解決に向けて、提案力や開発力を高める教育プログラムに取り組んでいる。文部科学省に採択されたenPiT（エンピット）事業を通して、大学の特色である「実践教育」に焦点を当ててみよう。

enPiTの「システムデザイン実践論」では、地元企業４社と学生たちがチームを組み、馬っこパークの課題解決をテーマとしたシステム開発に取り組んだ。

ロボットに対応する技術を使って、新たなシステムのアイデアを企業のシステム技術者と話し合う学生たち。

9大学と連携しながら新たなネットワークを広げる

ソフトウェア情報学部では、平成16年度から学生の主体的な教育・研究・創造を促すためPBL（Project Based Learning）を取り入れてきた。これは学年横断的にチームを組み、学生たちが自分たちの手でシステムの提案・開発を行いながら、課題解決に取り組むプロジェクト。このPBLをさらに発展させるため、実践教育に力を入れている大学と共同で、平成28年に「enPiT」に申請し、採択された。

このenPiTは、IT技術を活用して社会の様々な課題を解決できる人材を育成するため、複数の大学と産業界による全国的なネットワークをつくり、実際の課題解決に向けて実践的な教育を実施・普及する事業。FD研修会やシンポジウムなどを通して教育のノウハウを共有できるほか、連携大学の学生や教員間で交流できる機会もあり、様々な学びや刺激を得ることができる。

県立大学が関わるビジネスシステムデザイン分野は、社会や顧客ニーズに対し実用的なソリューションを提案・開発できる力を育成。筑波大学を中核拠点に、9大学が連携している。

実務経験が豊富なシステム技術者と、より実践的なシステムを開発

このenPiTで県立大学が目標とするのは、ICT／IoTを用いた新たなサービスを創出することができる、知的探究心と想像力（デザイン思考）を備えた「イノベーション人材」の育成だ。基礎知識学習→PBL基礎→発展学習と段階的に学ぶ枠組みの中、特徴的なのが既存の実践科目を活用して体系的な教育カリキュラムを整えていること。さらに、首都圏・地域企業と連携し、より実践的な教育を行っていることだ。

今年度は大学に隣接する「馬っこパークいわて」で新たなサービスを行うためのシステム提案・開発に取り組んでおり、地域企業のシステム技術者と一緒にチームを組み、企業が提供する技術を使って学生がアイデアを提案、設計から制作までの一連の流れを体験した。

このようにenPiTでは、地域企業を中心に20社以上の企業のシステム技術者と学生たちが直に議論する場を設けることで、学生のモチベーションアップや進路選択につなげているほか、県立大学の教育・研究活動にも様々な刺激やメリットをもたらしている。

［企業・地域と連携した実践教育例］

【ソフトウェア情報学部「プロジェクト演習」】
学年横断的にチームを組み、コンピュータを活用するプロジェクトを企画・提案。自分たちで調査したり、考えをまとめたり、メンバーと議論を重ねる中で、ものごとの考え方や議論の仕方を学び、主体的に行動できる力を育む。

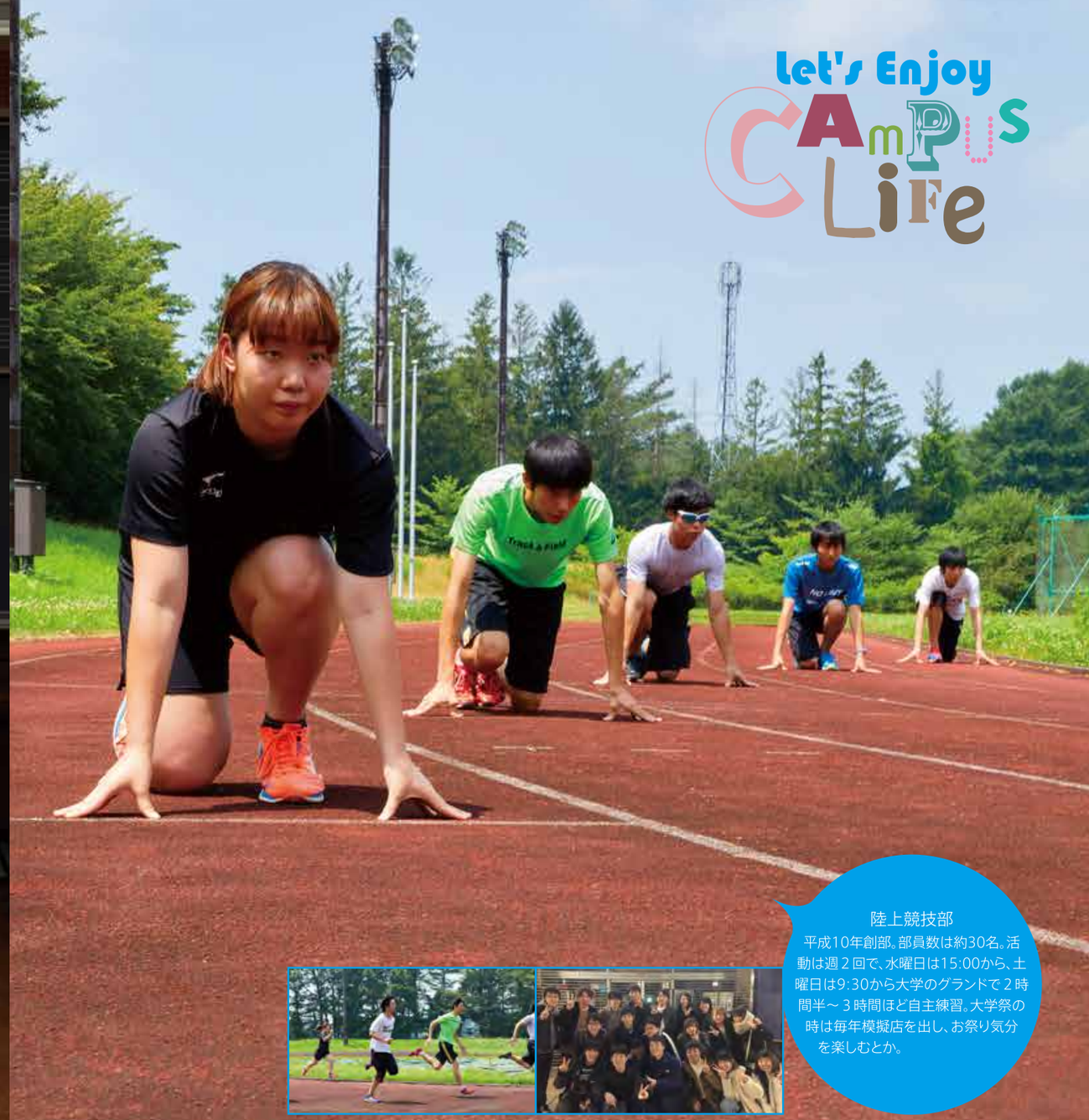
【総合政策学部「キャリア・デザインⅡ」】
実社会で通用する就業力を育成する３年次の必修科目で、盛岡駅ビル・フェザンと連携し、地元企業の新商品の開発プロジェクトに取り組んでいる。学生たちはチームに分かれ、業界研究・マーケティング調査・企画という商品開発プロセスを体験し、販売まで手がけている。

【基盤教育科目「地域コミュニティとまちづくり」】
まちづくりでの現場での課題や地域コミュニティの意味について、実例を学びながら考えを深める科目。授業では、①地域コミュニティ・ブームの再考②地域コミュニティと学生ボランティア③地域コミュニティと産業（生業）の３つのテーマを設定。テーマごとに解説を受け、各自で情報をリサーチした後、グループディスカッションやまとめの発表を行う。

［学生メッセージ］

「enPiT」のシステムデザイン実践論で、馬っこパークの課題を見つけ、その解決につながる観光アプリのシステム開発に取り組みました。授業では知ることのできない企業の最新技術や新たな知識を学び、学生同士でアイデアを出し合い、意見をまとめていくプロセスはとても面白く、刺激になりました。５日間のプログラムを通じて発想力を磨くことにより、自分の考えを形にする楽しさを知り、学びに対して受け身だった意識が変化。新しいものを生み出そうという意欲が芽生えたことが、自分にとって大きな収穫でした。

小野 峻明さん
ソフトウェア情報学部３年



陸上競技部
平成10年創部。部員数は約30名。活動は週２回で、水曜日は15:00から、土曜日は9:30から大学のグランドで２時間半～３時間ほど自主練習。大学祭の時は毎年模擬店を出し、お祭り気分を楽しむとか。

自分のペースで楽しく走る、それが陸上競技部のモットー

部員の半数が初心者という岩手県立大学の陸上競技部には、さまざまな動機の学生が集まってくる。勉強の合間にちょっと体を動かしたい、新しい競技に挑戦したい、マラソンの記録を伸ばしたい…など、目的はそれぞれだが、部全体のまとまりはよく、みんな仲が良いという。

「自分のペースで楽しく体が動かせるのが、うちの部のいいところ。練習や、大会のエントリーは一人ひとりの自主性に任せて活動しています」と話すのは、部長の津嶋諒さん（社会福祉学部・3年）。日々の練習も、基本は自主練習。集まった部員たちが、その日のコンディションを見ながら練習メニューを相談し、決定するスタイルだという。

一見、個々に思えるが、そうではない。走るのは楽しい反面、苦しいものだ。特に長距離を走る部員たちは、一緒に走る仲間の存在が励みになり、達成感を分かち合える喜びがある。「この春、有志の部員で盛岡一周継走という駅伝に出場しました。いつか陸上競技部でチームを組み、仲間にタスキを渡したいですね」。長距離ランナーである津嶋さんは、密かにそんな夢を抱いている。

let's Enjoy CAmPUS Life

吹奏楽サークル
平成10年創部。部員数は38名。練習は週３回（月曜日・水曜日・木曜日）、18:30～21:00まで音楽室で行っている。新入生歓迎会、七夕祭、大学祭、夢灯りなど、学内イベントを中心に活動中。

みんなの音を重ね合わせ ひとつの曲を作り上げていく

「うちのサークルのモットーは、一人ひとりの音楽に取り組む姿勢を尊重すること」と、代表の藤原華愛さん（総合政策学部・2年）がいうように、岩手県立大学の吹奏楽サークルは自由でありながら、とてもアットホームな雰囲気だ。部員の多くが経験者だが、演奏する楽器も練習への参加も、すべて本人の意志にゆだねられる。

「大学は高校と違いますから、足並みを揃える必要はありません。他のサークルや社会人バンド等と掛け持ちしている人も多いですし、独自にアンサンブルを組んで大会に出場する人もいる。いろいろな楽しみ方があっていいと思うんです」。吹奏楽サークルが演奏するのは、七夕祭、大学祭、夢灯りといった学内イベントのほか福祉施設等での依頼演奏や、今年度は社会人バンドとの演奏も。全員でそれぞれのイベントにふさわしい楽曲を選ぶのだが、なかでも得意とするのが「県大らしい」明るいポップス。

「吹奏楽の魅力は、みんなでひとつの曲を作り上げていくこと。いろいろな音が重なり、徐々に大きなパワーになっていく感じがとても好きです」と語る藤原さん。個々の音と全員の音から生まれる調べは、サークルの雰囲気とつながっているのかもしれない。

産業振興

宮古短期大学部 教授

川島 英城（かわしま ひでき）

群馬県前橋市出身。1983年筑波大学大学院農学研究科応用生物化学系博士課程修了。1990年、岩手県立宮古短期大学（現岩手県立大学宮古短期大学部）開学と同時に着任。生命と科学、生活環境概論などの教養科目を担当している。りんごが大好きで、趣味は料理。毎年りんごの季節になるとジャムやアップルパイを作るのが恒例。時には学生に振る舞うことも。

三陸の巻貝から発見した新規不飽和脂肪酸の可能性を探求

「なにか宮古らしいものをテーマに、生物学的な研究ができないだろうか。そう考えていたとき、海岸で巻貝を見つけ、分析してみたのがきっかけでした」

宮古短期大学部の川島英城先生は、三陸海岸に生息する巻貝「ヨメガカサガイ」から、数十種類もの新規不飽和脂肪酸を発見。その特性を見極め、機能性食品などに活用できる可能性を探求しようと、岩手大学農学部と共同で研究を進めている。

不飽和脂肪酸は、構造中に二重結合を持つ脂肪酸で、低温でも固まりにくいといった特徴がある。魚に含まれるDHAやEPAのように健康効果が認められ、サプリメントなどの機能性食品に利用されるものも少なくない。

「今回見つけた不飽和脂肪酸の中にも、人の健康に役立つものがあるかもしれない、と期待しているんです」と川島先生。先生がヨメガカサガイから発見したユニークな不飽和脂肪酸は、なんと30種類近く。そのうち10種類を対象に化学構造の解析と生物活性（生体に与える効果）の評価に取り組んだところ、2種類から新たな生物機能の解明につながる「想定外の活性」を見いだすことに成功した。これらの研究成果を論文にまとめ発表する準備を現在進めている。

東日本大震災による中断を含め、ここまでに10年もの歳月を要したヨメガカサガイの研究。そのモチベーションの源は「純粋に研究が面白いから」と先生は笑う。

「三陸の海には、未解明の物質を持つ生物がまだたくさんいる。この可能性の宝庫をフィールドにできる宮古キャンパスは、すばらしい環境だと改めて実感しています」

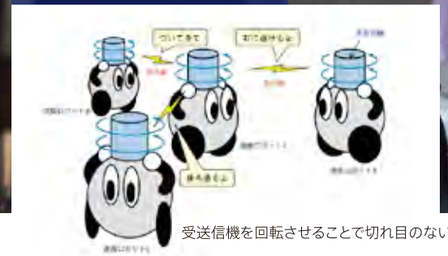
産業振興

ソフトウェア情報学部 准教授

新井 義和（あらい よしかず）

埼玉県菖蒲町（現久喜市）生まれ。1993年東洋大学工学部情報工学科卒業。同大大学院工学研究科（博士前期課程）修了後、理化学研究所でロボット研究に取り組み、1998年に連携大学院である埼玉大学大学院理工学研究科（博士後期課程）を修了。同年4月、岩手県立大学に着任し現在に至る。研究活動が縁で枝打ちや間伐を体験して以来、山仕事が趣味。

赤外線通信システム



受送信機を回転させることで切れ目のない通信環境を実現し、ロボット同士の衝突を避ける。

ロボットの可能性を広げるシームレスな通信システム

「機動戦士ガンダム」に憧れ、大学時代、周囲に「ガンダムをつくる」と公言していたという新井義和先生。「今も同期に『ガンダムできたか？』とからかわれます」と笑う先生は、ロボットの衝突を回避する「赤外線を使った通信システム」の研究に取り組んでいる。

「赤外線は、テレビのリモコンなどにも使われている目に見えない光ですが、向いている方向に直進する性質があり、あらゆる方向に電波が拡散するwi-fiなどに比べ混信が起こりにくい。また、送信方向ごとに情報の切り替えができ、光の強さによって信号が届く範囲を変えられるといった利点もあります」

この特性を生かせば、例えば工場内で働く複数の運搬ロボットが、進行方向や速度などの行動情報を赤外線通信でやり取りし衝突を回避できる、と新井先生は話す。

しかし、ロボットが互いの動きを把握するには全ての方向が送受信可能状態でなければならず「送受信素子を放射状に並べる」従来の方法では通信の死角ができるという課題があった。そこで新井先生の研究チームは「送受信機そのものを回転させる」という独自のシステムを構築。シームレス（切れ目のない）通信を実現した。

「速度の改善や小型・軽量化などの課題を克服できれば、実用化も夢ではない」と話す新井先生。「おそらくまだ他に例がない」というこの通信システムを応用し、研究チームのひとり・赤川徹朗さん（博士後期課程1年）は、目的に応じて合体する「自己組織化ロボット」を研究しているという。ガンダムを夢見ていた新井先生の取組は、ロボットの進化を担う大きな可能性を持っている。

20th Anniversary Ceremony

6.19

岩手県立大学開学20周年記念式典を挙行

平成30年4月、開学20周年を迎えたことを祝し、開学記念日である６月19日、来賓・大学関係者約400人の方々にご列席いただき、記念式典を挙行しました。
第一部の式典では、鈴木学長から20年の歩みとこれからの大学ブランド確立の決意を込めた式辞、そして、達増岩手県知事からはこれまでの関係各位への感謝を表する告辞に続き、文部科学省高等教育局長をはじめとする御来賓の皆様からご祝辞を賜りました。
第二部の記念講演会では、３人のパネリストを招聘し、「岩手県立大学に期待するもの」と題し、パネルディスカッションが行われました。
式典後は、祝賀会も盛会に執り行われ、滞りなく終了しました。当日は、多くの皆様のご列席のほか、お祝いのお花やご祝電を頂戴し、厚く御礼申し上げます。

8.3

盛岡さんさ踊りで「優秀賞」を受賞

笑顔で踊りきった「盛岡さんさ踊り」。今年も、８月３日に岩手県立大学さんさ踊りが出場し、「優秀賞」を受賞しました。
総勢200人による踊りは、岩手県立大学の開学20周年にふさわしく、ピンクの浴衣に負けない、学生たちの明るさ、元気の良さ、力強さが感じられるものとなりました。沿道からもたくさんの声援を受けました。

KENDAI NEWS

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。

7.21,28 8.4

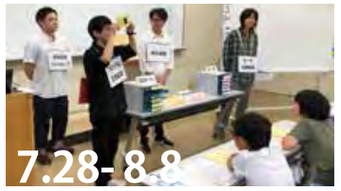
公開講座を開催

開学20周年を記念し、「ここからはじまる、いわての未来～岩手県立大学20年の歩みとこれから～」と題して、平成30年度公開講座・滝沢キャンパス講座（全９回）を開催しました。今年は、学外からの講師を招聘したほか、学長や各学部長等が講師を務め、いわての未来について考えました。

7.31

戦略的研究プロジェクトを創設

開学 20 周年を機に、新たに戦略的研究プロジェクトを創設し、７月31日に鈴木学長等が会見を行いました。本プロジェクトでは、研究力を一層強化しながら、その研究成果を地域に還元することにより、広く岩手県の産業・経済の活性化、生活レベルの向上、イノベーションの創出への貢献を目指します。



7.28-8.8

おでんせ!サイエンスキッズ2018を開催

ソフトウェア情報学部主催「おでんせ!サイエンスキッズ2018」が開催されました。これは小学生の「プログラミング的思考」を育成するための体験イベントで、今年は６つの体験授業が行われました。寸劇やゲームを使ってコンピュータのしくみを考えたり、ロボットやドローンを動かすプログラムを組んだり、コンピュータ科学を楽しく学びました。

8.6-9.30

サマーセミナーを開催

「サマーセミナー（旧:オープンラボ）」と名称を変えて開催の高校生等を対象としたプチ大学生体験。今年は滝沢キャンパスの全ての学部で９つのテーマに沿って開催し、大学の教員による講義や実習・実験を通して、大学で学ぶ楽しさを体感しました。

■大学祭（鷲風祭）滝沢キャンパス／10月20日（土）・21日（日）テーマ Re:start

○主なイベント紹介

Re:start GLAND PLIX リスタートグランプリ
ペアで協力しておもしろい回答で一番会場を笑わせることができるのはどのペア？みんな見に来てね～!!

お化け屋敷
今回の舞台は戦慄の廃校…今年一の恐れがあなたをお持ちしております・・・

大画面で熱いカーチェイスを繰り広げろ!! Let's マリオカート
夢の大画面でマリオカート!激アツのカートバトルを刮目せよ!!

Mogistagram
インスタグラムをモチーフにした模擬店王者決定戦!あなたのイイねが勝負を分ける!

県大フリーマーケット
とっておきの掘り出し物が見つかるかもしれません!!ぜひ足を運んでみてね!!

ステージイベント（20日）

日程	時　間	イベント名
20日（土）	9:40 ～ 10:10	オープニングセレモニー1日目
	10:25 ～ 10:45	岩手県立大学さんさ踊り
	11:00 ～ 11:30	ギタークラブ･アコーステックライブ
	11:45 ～ 12:45	新企画❶つないでバトル
	13:00 ～ 14:00	新企画❷IPPON
	14:15 ～ 15:15	D.A.T.presents DJ'sLive Stage in 鷲風祭2018
	15:30 ～ 16:00	生演奏×ダンスパフォーマンス
	16:15 ～ 16:45	響け！我らのシンフォニー
	17:00 ～ 17:30	アカペラLIVE2018
	18:00 ～ 19:00	中夜祭

ステージイベント（21日）

日程	時　間	イベント名
21日（日）	9:40 ～ 10:10	オープニングセレモニー2日目
	10:30 ～ 11:30	W鉄神ガンライザーショー
	13:00 ～ 14:00	アーティストライブ
	15:00 ～ 15:30	新企画❸替え歌
	15:45 ～ 16:15	新企画❹二人羽織
	16:30 ～ 17:00	軽音部～歌えや踊れやメインステージ編～
	17:20 ～ 19:00	グランドフィナーレ

※イベント名等は変更の可能性があります。最新情報→大学祭実行委員会のHPへ

講堂イベント（20日）

日程	時　間	企画･団体
20日（土）	10:30 ～ 11:45	男女装
	12:30 ～ 13:45	ベストフレンズ
	14:20 ～ 15:00	吹奏楽サークル

講堂イベント（21日）

日程	時　間	
21日（日）	10:30 ～ 11:45	マリオカート
	12:25 ～ 13:00	混声合唱団Polish
	14:20 ～ 15:00	吹奏楽サークル

○両日同時開催　模擬店／サークルや有志団体による発表やパネル展示／お化け屋敷／プラネタリウム／合格祈願ができる県大神社／フリーマーケットなど

☞ 大学祭実行委員会HP　http://festa.iwate-pu.jp

■大学祭（蒼翔祭）・宮古キャンパス／10月27日（土）・28日（日）

イベント（27日）

日程	時　間	企画･団体
27日（土）	10:30 ～	開始
	12:00 ～ 12:30	ダンスサークル発表
	13:00 ～ 14:30	軽音サークル発表
	～ 15:30	終了

※イベント名等は変更の可能性があります。

イベント（28日）

日程	時　間	企画･団体
28日（日）	10:30 ～	開始
	11:00 ～ 12:30	ビンゴ
	13:00 ～ 13:30	DJパフォーマンス
	14:00 ～ 15:00	コスプレコンテスト
	～ 15:30	終了

○両日同時開催
お化け屋敷／リサイクル市（図書館で不要となった本を安値で販売）／ゼミ企画（飲食物販売）

☞ 宮古キャンパスHP　http://www-myk.iwate-pu.ac.jp/

滝沢キャンパスではオープンキャンパスも同時開催!!10月20日（土）・21日（日）

大学祭ではオープンキャンパスも実施されます。大学祭を楽しみながら、県立大学での学び･生活への理解を深めよう!!
■オープンキャンパスイベント（10:00～17:00他）／大学紹介･入試相談や学部を身近に感じる体験･紹介イベント、在学生の「キャンパス･アテンダント（CA）」による相談など、県立大学の魅力を伝えるイベントが満載。ぜひお立ち寄りください。**詳しくは☞http://www.iwate-pu.ac.jp/**

編集後記

開学20周年を迎え、このような記念すべき年に広報を担当したことは大変光栄であり、記念式典や特別番組制作など貴重な経験をさせていただきました。また、いつもよりも多くの在学生、卒業生、教員、地域の方等に取材し、手前味噌ですが、改めて本学の良さ（教育･研究･人など）を再認識する機会となりました。これからも広報誌やSNS等でたくさん大学の情報を発信しますので、よろしくお願いします。なお、開学20周年を記念し、特別番組を放送中です。ぜひ、ご覧ください。
詳しくはこちらから→https://www.iwate-pu.ac.jp/20th/

広報誌WEB版も公開中！

岩手県立大学のホットな情報発信中!

岩手県立大学では、お知らせやイベント情報などをリアルタイムに発信するためTwitter公式アカウント【@Iwate-puPR】、Facebook、YouTubeで情報提供を行なっています。ぜひ、ご覧ください。

広報誌へのご意見･ご感想や、広報に関する皆様のご意見を企画室までお寄せください。
TEL.019-694-2005 FAX.019-694-2001
E-mail:management@ml.iwate-pu.ac.jp